

「特別の教科 道徳」授業づくりハンドブック

本資料は、道徳科の特質を踏まえた授業づくりに向けて基本的な事項をまとめています。

1 授業づくりの流れ

道徳科の目標の実現を図る授業づくりについて、道徳科の目的や学習指導要領解説の内容等のほか、授業づくりの手順を記載しています。

2 授業づくりのポイント

道徳科の目標に示されている学習活動について、各活動の意義や効果的な実践に向けたポイントのほか、自身の授業に係るチェックポイントを記載しています。

3 道徳科における学習評価

道徳科の学習評価について、評価に係る基本的な考え方や授業を進める中で必要となる視点のほか、学習評価の実際の工夫例を記載しています。

1 授業づくりの流れ

道徳科の目標を確認

道徳科の目標 (小(中) 学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編)

第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、**よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため**、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を(広い視野から)多面的・多角的に考え、自己の(人間としての)生き方についての考えを深める学習を通して、**道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。**

ねらいの検討・指導の重点の明確化

児童生徒の実態を確認

内容項目に関わる児童生徒の実態や発達の段階、内容項目に関わる各教科等の指導の状況を確認します。

本時のねらいを決定

本時のねらいには、道徳性の諸様相である「道徳的判断力」「道徳的心情」「道徳的实践意欲」「道徳的態度」のいずれかを位置付けます。

学習指導過程を構想

上記目標に示されている「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を(広い視野から)多面的・多角的に考え、自己の(人間としての)生き方についての考えを深める」学習活動を設定します。

内容項目を確認

- ・内容項目は19～22項目あります。
- ・学習指導要領解説に示されている各内容項目に係る解説を確認します。
- ・特に、「(2) 指導の要点」の「指導に当たっては～」の文には、発達の段階を踏まえた大切な内容が記載されています。

教材を吟味

教科用図書や補助教材について、指導者が児童生徒に考えさせたい道徳的価値に関わる内容がどのように含まれているかを確認します。

道徳科の目的は道徳性を養うこと！

○道徳的判断力

それぞれの場面において善悪を判断する能力

○道徳的心情

道徳的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情

○道徳的实践意欲

道徳的判断力や道徳的心情を基盤とし道徳的価値を実現しようとする意志の働き

○道徳的態度

具体的な道徳的行為への身構え

本時の授業の実施

2 授業づくりのポイント

学習指導過程を確認

道徳科の目標に示されている「**道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己の（人間としての）生き方についての考えを深める**」学習活動を位置付けます。

① 問題意識をもつ

児童生徒が主体的に道徳性を養うためには、学習の始めに児童生徒自らが学びたいという問題意識や問題追究への意欲を高め、学習の見通しなどをもたせることが大切です。

チェックポイント

- 児童生徒が本時の内容項目に対して、興味・関心をもつだけでなく、「なぜだろう」、「考えてみたい」と思える学習となっていますか。

テーマに係るアンケートを実施し、その結果から、問題意識を高め、本時のテーマを焦点化



実際の授業の実践事例（動画）



【小学校の事例】



【中学校の事例】

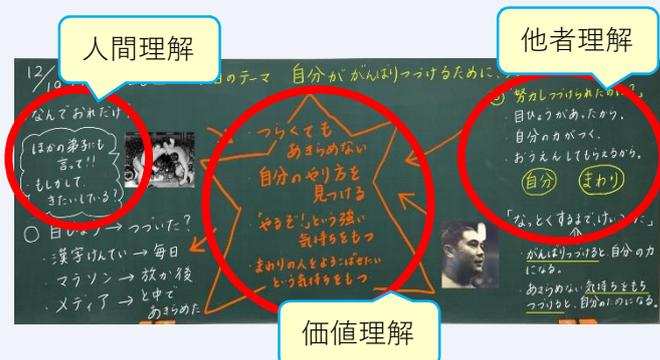
「北海道版道徳教育アーカイブ」掲載動画

② 道徳的諸価値を理解する

児童生徒が今後、様々な問題場面に出会った際に、その状況に応じて自己の生き方を考え、主体的な判断に基づいて道徳的実践を行うためには、道徳的価値の意義及びその大切さの理解が必要です。

チェックポイント

- 内容項目を人間としてよりよく生きる上で大切なことであると理解する場面を設定していますか。（価値理解）
- 道徳的価値は大切であってもなかなか実現することができない人間の弱さなども理解する場面を設定していますか。（人間理解）
- 道徳的価値を実現したり、実現できなかったりする場合の感じ方、考え方は一つではない、多様であるということを前提として理解する場面を設定していますか。（他者理解）



学習指導過程の例

※学習指導過程や指導方法は一例であり、各学校において工夫することが大切です。

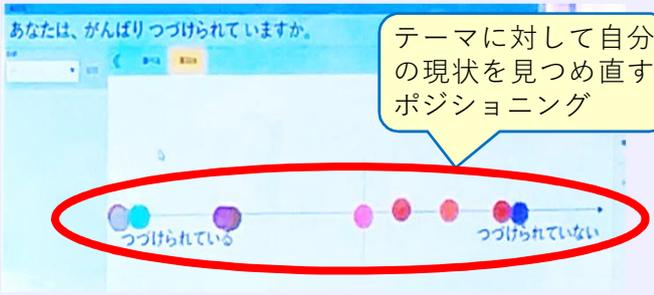
導入	展開		終末
①問題意識をもつ	②道徳的諸価値を理解する	③自己を見つめる	④物事を（広い視野から）多面的・多角的に考える
			⑤自己の（人間としての）生き方についての考えを深める

③ 自己を見つめる

道徳的価値の理解を図るためには、児童生徒一人一人が自分との関わりで捉えることが重要です。

チェックポイント

- 教材から離れ、これまでの自分の経験やそのときの感じ方、考え方と照らし合わせながら、更に考えを深める学習となっていますか。



④ 物事を（広い視野から）多面的・多角的に考える

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うためには、児童生徒が多様な感じ方や考え方に接することが大切です。

チェックポイント

- 多様な価値観の存在を前提にして、他者と対話したり協働したりしながら、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考える学習となっていますか。

1人1台端末に記述した考えを基に交流



⑤ 自己の（人間としての）生き方についての考えを深める

自己の（人間としての）生き方についての考えを深めるためには、道徳的価値の理解を自分との関わりで深めたり、自分自身の体験やそれに伴う感じ方や考え方などを確かに想起したりすることができるように指導することが重要です。

チェックポイント

- 道徳的価値に関わる事象を自分自身の問題として受け止められる学習となっていますか。
- 他者の多様な感じ方や考え方に触れることで自己を深く見つめられる学習となっていますか。
- これからの生き方の課題を考え、それを自己の（人間としての）生き方として実現していこうとする思いや願いを深めることができる学習となっていますか。

3 道徳科における学習評価

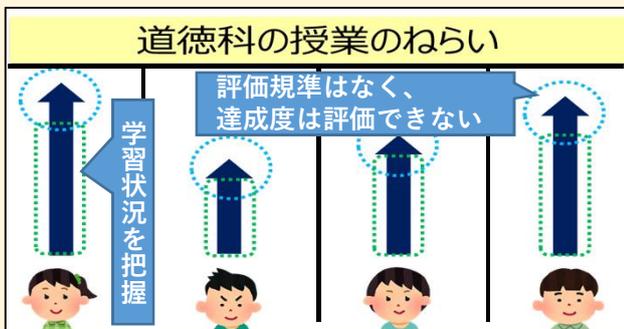
授業の実施

道徳科に関する評価の基本的な考え方

「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己の（人間としての）生き方についての考えを深める」という目標に示された学習活動に基づき、児童生徒が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を適切に設定し、児童生徒の具体的な学習状況を学習活動全体を通して見取ります。

学習評価の視点

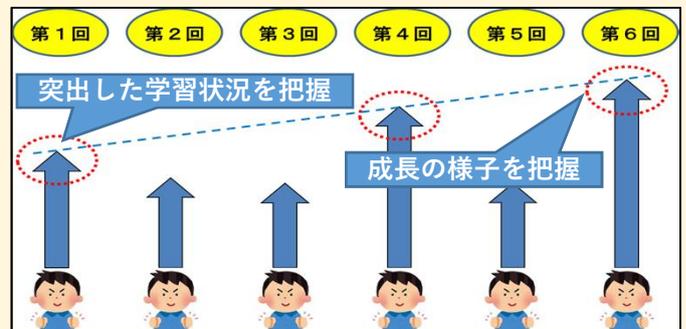
道徳性を養うことを学習活動として行う道徳科の指導では、個人内の成長の様子を重視し、**学習状況**や**成長の様子**を継続的に把握し、評価します。



※他の児童生徒と比べない個人内評価

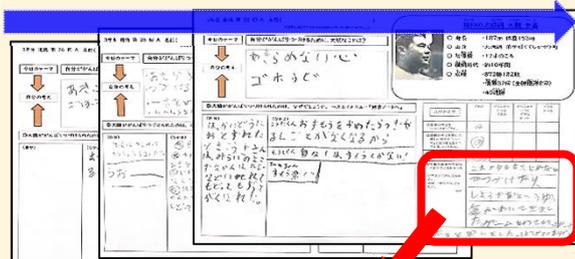
特に次の2点の学習状況を重視して見取ることが重要です。

- ・ 一面的な見方から**多面的・多角的**な見方へと発展しているか。
- ・ 道徳的価値の理解を**自分自身との関わり**の中で深めているか。



学習評価の工夫例

【児童生徒の学習の過程や成果などの記録を計画的に蓄積した例】



児童の記入：これから、お父さんやお母さんに感謝しながら、あきらめないで続けようとする気持ちがわいてきました。

毎時間、同じ形式のワークシートを活用し、児童生徒の成長の様子を把握



生徒の記入：みんなそれぞれ視点があったが、私としては、これまで「できる。」「できない。」の判断が早すぎたように思う。

毎時間、児童生徒が考えたことを1人1台端末に蓄積し、学習状況を把握

学習評価

令和6年3月発行
編集・発行：北海道教育庁学校教育局義務教育課
監修：十文字学園女子大学教授 浅見 哲也